

漆塗り器

りかのひとりごと

2024年2月



若い頃から、洋服より食器を集めるのが好きでした。

けれども今は、漆塗りの器2つで、全てが足りてしまいます。集めていた時も嬉しく幸せでしたが、ありとあらゆるお料理に、ぴったりマッチしてしまう漆器は、「天晴れ」としか言いようがありません。そして、とても美味しく感じ、健康をいただいている実感があります。高額でしたが、それ以上の豊かさを日々、味わえています。

普通、漆と言えば輪島ですが、知人の紹介で、長浜市にある渡辺久七商店さんの「常喜椀」にご縁をいただきました。

漆文化を牽引してきた輪島は今、能登半島地震により、大きな被害を受けています。倒壊しかけた家から「陶製の食器は粉々に砕けたけれど、漆器はちゃんと残っていて救助された」と新聞に掲載されていました。アルコールにも酸にも溶けず、何より風雪に強いそうです。

渡辺久七商店さんは、お世話になった輪島のために「がんばろう漆プロジェクト」を立ち上げています。「お箸は結界」など、興味深いお話もホームページで紹介されています。



【左側】 20年前に、違うお店で偶然見つけたお皿です。重量感はかなり異なるのですが、たぶんヒヨコの作者は同じだと信じています。

【右側】 高校生の時に買った「マイ皿」です。もう40年以上の相棒です。かなりずっしりしたなかなか立派なお皿です。



～ 渡辺久七商店さんのご紹介 ～

(ネットより抜粋)



この記事を書いた人

最新のの記事



渡辺 嘉久

昭和38年(1963年)滋賀県長浜市生まれ。漆塗職人をやってます。お箸お椀から建造物の漆塗りまでオールラウンドにこなします。日本一の漆バカを目指し、日本初のうるしエバンジェリストとして漆の魅力を広く伝えていきます。



カテゴリー

渡辺久七商店

タグ

古道具 ◆ 工芸 ◆ 常言椀 ◆ 渡辺久七商店 ◆ 滋賀 ◆ 金継ぎ ◆ 長浜 ◆ 長濱金継ぎ倶楽部 ◆ 雑貨

